



アタリ

雨水号 | No. 00007
平成26年02月19日(水)
発行 書肆べう
ながしろぼんり

春立ちぬ。

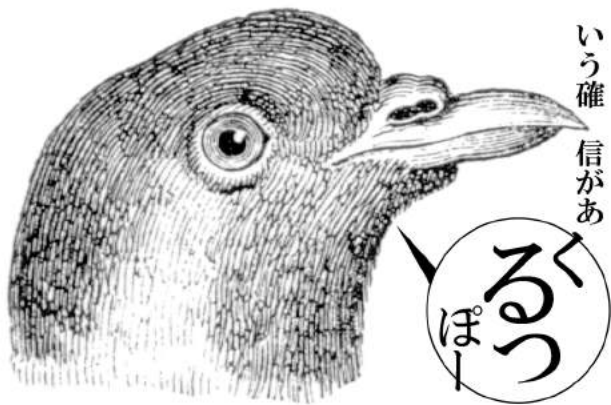
昔から一月はイグウウウ、二月はニヤふうーん、三月はさりゅーんと申しまして

三月だけ訳が判らない。判らないのはお前の頭やツ！

佐村河内にブラコージ、ハイツ開祖魔墟の終末感。

五年後、いや、三年後にや

覚えていないんだろなあと
いう確信があ



る。数年後に本紙を読み返して、このサムラゴーチてえ人は誰だったかないな、というのを見越してここに書いておく。よって詳細は記さない。

ゴーストの需要というのはあちこちにあって、概ね権威はあるけれども文章は苦手である、書けない、面倒臭いなどの理由で発生するので

す。たてば病院のホームページがあつて、院長は名医なんだけど文章は苦手である。しかしたくさんの患者が待つているから正直なこと時間

なんぞかけてらんないよね、でも権威とクオリティ



は欲しい。そういうところにライターの仕事というのんは発生する。権威代は、高い。

もつと卑近な例を出そうか。インターネットが普及する昔はブルセラ雑誌なるものが

がようけ流行っておりまして、そういう趣味のおっさんが買う雑誌になぜか女子校生のナマ体験告白が載るわけです。それも、かなり「読める」文章。出版の仕事なんてえのは

一般的にやブラックボックスなわけですが、以前、とある商社の「会議室」という名のパーティーションで区切ったところで、死んだ魚の目を



こい指使いが今の彼氏と全然違うんですつこい感ぢぢやつた」とか黙々とタイプしているのを家政婦は見た。市原悦子！ バリアル！ やっぱり嘘ー！

守 秘義務！



ね ちっこい指使いで扱ってものといったらオカリナに決まってるじゃないですか。いやだなあ。

でも実のところ、いくらいい曲でも同じ値段ならブランドの高いものを買うでしょう。プリンタのインクも、

同じ値段であれば正規品を買うに決まっておる。おっさんの妄想も女子校生



べう式「アタリ」は、書肆べうの発行する冗句と与太話のフリーペーパーです。出来れば各自でPDFをダウンロードし、プリンターなどを駆使してお楽しみください。A4版です。御連絡はbanric@gmail.com (ながしろ) まで。Website : <http://sbew.web.fc2.com/atari/>

白赤七染
君が代
髪に女の生命
京東 店商吉山

鬼鎮の
おみやげ
買販類薬火砲銃
造製具靈砲銃
店砲銃倉小

特小兒の爲に創られた
ホシ小兒専門薬
子供に
一歩
ホシ

の秘密の告白だから売り物になるんです。本質的にやそういうことです。一つ権威があるとその下に仕事が終わらんと生まれ、それで食っていけない人がおるのです。

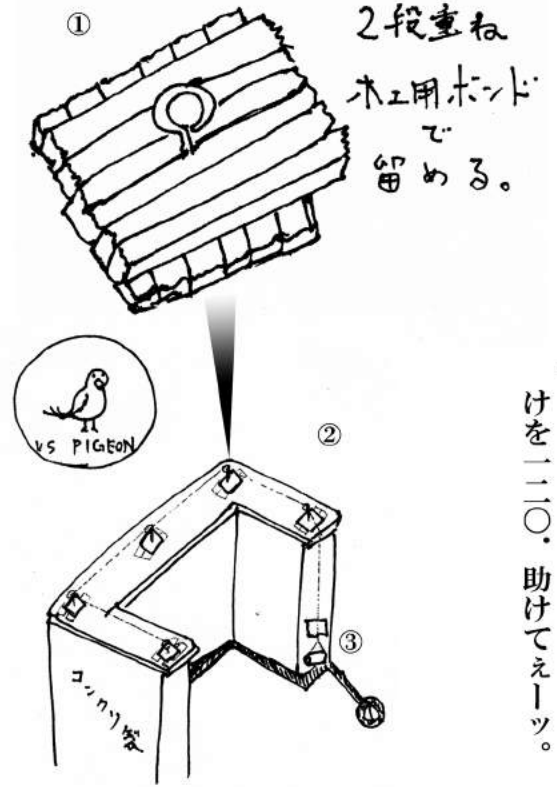
なんかそのなー。どこか内部事情も知らないくせに、自分の知っていることがすべてだと思って自分を発信する層、というのが少なからずいて、これが親戚の法事の時だけ見える厄介なおっさんレベルなら避けようもあるけれど、相手が何者か分からないで云うと、声のでかいほうが正しくなつてっちゃうみたいなところがあつて。せめてブーメランみたいにならないように心がけたいものです。

脱糞！ ポツポ先生。

弊 社の入っている集合住宅、除けネットを設置しちゃったばかりに行き場のなくなつた鳩がみんな殺到してくる。鳩除けネットにや金もかかるし、第一風景が良くないしー、と

はいえ鳩の公開スカトロシヨウを片づけるのは我々であり、やっぱりどうにかせにやならぬ、というわけで調べてみると「飛んできた鳩が止まれないきや入つてこない」という答えは出てくる。OKあとは手段を探す。

低 予算、低リスク、低被害。辺は慣れたもの。たまつた割り箸を折り積み重ねてヒートンをつける。この仕掛けを五つ作り、ベランダはコの字型であるので図のように設置し、テント補修用の防水テープで固定する。麻紐は水によって伸び縮みするので、ヒートン



ごとに結ぶと張り詰めない。そうすると鳩にとって厄介でも何でもないのちよつと考えて、錘をつけて垂らすこととした。もちろん、風の強い日に吹っ飛んでも困るので、錘の上はテープで留める。コナクリのベランダであるのでテープをはがしても傷がつかないから敷金にやさしい。まんがいち、装置が外に落下しても人死には出ない、と。

今 のところ、目度いことに鳩は来ていない。でもだいたい三日くらいすると慣れてくるので、三日ごとに仕掛けを変える必要がある。一年三百六十五日、新しい仕掛けを二〇〇助けてえーッ。

文フリに出る。

前 回、第十七回文学フリマで創刊した弊紙「アタリ」であるが、第十八回文フリにも出る事となった。

色 々考えたんだけど、やっぱり売れるから楽しいのです。別に無理して仲間を増やしたいわけでもない。とりたてて理想やら信条を語りたいたわけでもない——のは、まあ弊紙なんぞ観ていただくとかかると思うのですが、でも、面白がってもらいたいし、その延長線上で自分の作ったものが一杯売れるといいと思う。その辺はアレです。文学フリマが「マーケット」であるかぎり「売る」「売れる」という可能性を捨ててはいかんと思うのです。

で、予告。料理本を出します。例によって短編集を出すと思いますが、それよりも実用ですよ。お値段通りか、それ以上。そういう実験を試してみたい。前回同様フブキと売り場を分割します。ケチ！

文学フリマに出るヨ

記事にも書いた通り、第十八回文学フリマに出店します。書肆べろ／フブキナオクモとすることで、狭いブースをさらに半分にして頑張ります。

〔日時〕五月五日（月・祝）
〔会場〕東京流通センター
第二展示場

〔入場〕無料
詳細が分かりしだいお知らせしていきますが、とつとと文学フリマのウェブサイトを見たほうが早いよネ。

バックナンバーはこちら
弊紙「アタリ」のバックナンバーはウェブサイト
<http://sbew.web.fc2.com/atar/>
からご覧いただけます。

まだまだ試行錯誤が続いております。ファイルの圧縮調整にずいぶん骨を折っております。



といった次第で、今号は以上。